



学校通信

令和 5 年度 第 9 号
令和 6 年 1 月 9 日
練馬区立開進第三小学校
校長 岡部 良美

三角トークで言語表現能力アップを

校長 岡部 良美

年末年始、本校の子供たちは家族団欒の時を過ごしたことと思います。1年間の頑張りと思い出を振り返ったり、今年の目標を語ったり、笑顔と共感があったりなどの光景が目には浮かびます。1月1日に石川県を震源とする大地震がありました。そのため、北陸地方では、尊い命が失われたり、けがをされたり、家を失われたり、水を飲む・暖をとる・家族で語らうなどの日常生活で当たり前に行われていた生活ができなくなったりしている報道を見るたびに、家族団欒のありがたさを感じる今です。

子供の語彙は、最初は家庭内で増えていくものです。交わす言葉が、語彙増量となっていくものです。子供は密接に関わる人の影響を受けるものです。話し方、聴き方、書き方、さらには立ち居振る舞い等の仕草があげられます。とりわけ、話し言葉は日常生活で直に影響を受けるものです。

これからの時代を創り、社会の創り手となっていく子供たちには、まず、自分の思いや考えを言葉に表し、的確に伝達できるトークができるようにしたいと思います。家庭でも学校でもその場に複数の人が居合わせれば、必ず立場が存在するものです。例えば、**話す人**がいれば**聴く人**もいます。また、**両者を観ている人**もいます。この三つの関係を大切にしていけることによって言語表現能力が高まることが往々にしてあるものです。

家庭の団欒、それは楽しいひと時です。今日一日の報告、今思っていることや考えていること、感じていること、将来の夢や希望等の話題で、心躍る機会でもあるのです。今日の食卓に上がっている食事の味や食材のことでいいのです。そうした機会でも、話している人、それを聴いている人、そして、その関係をじっと観ている人がいるのです。観ている人は、特に話している人の話し方や話しぶりや話の中で使用される言葉等を、しっかり観て評価をし、それを話した人に伝えてほしいのです。

普段から、話す時の言葉や話し方に留意されているご家庭では、必ず、すばらしい話し方ができる子供が育っていくと思います。



美しい言葉、正しい言葉、温かい言葉、相手に心が伝わる言葉は、そうした日々の三角トークから生まれることが多いように感じています。

開三小では、探究開三小メソッド5による学習活動、生活科や総合的な学習の時間における、子供一人ひとりの思いや願い・課題から発した活動に基づいた、探究した経過や結果を保護者や地域の皆様に表現する機会を通して、三角トークの実践を進めています。